（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	かめっ子クラブⅡ			
○保護者評価実施期間	令和８年　１月１５日		～	令和８年　１月３１日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	24	（回答者数）	12
○従業者評価実施期間	令和８年　１月１５日		～	令和８年　１月３１日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	10	（回答者数）	9
○事業者向け自己評価表作成日	令和８年　３月１１日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・集団または個別のSSTを活用して、子どもたちの生活面全般での対応方法を学ぶ機会を設けている。	・子ども本人に生活面での様子を聞き取り、不安やトラブルについて必要となる内容をSSTの課題として取り組んでいる。 ・保護者から子どもの様子などを対面または連絡帳を通じて情報共有を行い、必要であると思われる事に関して取り組む内容を決めて行っている。 ・子ども達が意識して内容に取り組めるよう、楽しみながら話を聞ける環境作りに取り組んでいる。 ・取り組んだ内容をホワイトボードに記し、写真を取った物をプリントしてファイリングをしてもらっている。ファイリングした物に関しては保護者との面談などで取り組んだ内容について説明を行っている。	・子ども達にわかりやすく伝えるために、ITを使用したSST動画（VTRモデリング）やロールプレイなどで分かりやすく取り組みます。 ・子ども達の活動の様子をしっかりと見守り、対応方法を身につけられるよう支援を行います。 ・SSTに取り組んだ後、活動の中で実践できる環境を整えて必要に応じて振り返りを行います。
2	・畑作業を活動の中に取り入れ、身体能力の向上、食育に取り組んでいる。	・畑作業において健康面に配慮し、楽しみながら身体全体を使った身体機能の向上を図っている。 ・子ども達と一緒に栽培したい野菜を決め、種植えから取り組み野菜の成長を見守っている。 ・クッキング活動を通じて収穫した野菜を使い、野菜の栄養等の知識を子ども達に話をしながら取り組んでいる。 ・調理方法など皆で調べたり、話し合いをしたりして楽しく学べる環境づくりに取り組んでいる。 ・野菜嫌いな子ども達は調理方法をアレンジして食べられる方法を模索している。	・子ども達が誰でも安心して安全に移動できるよう環境の整備を行う。 ・野菜の栽培をしていない時期に子ども達の遊び場として有効利用する。 ・子ども達が自立するまでに少しでも困りごとが減らせるよう、少しずつ調理ができるようレパートリーを増やしている。 ・身近（自宅など）な所でも栽培できる野菜などを育てる。 ・子ども達に健康面の知識を得られるような機会を設ける取り組みを行います。
3	・ICTを有効活用した業務の効率化、保護者との情報共有の強化を図っている。	・子どもの日々の支援記録をタブレット端末を使用して支援中に必要な記録ができている。 ・つながる家族を通じて、毎月のお便り、献立表、コロナ・インフルエンザについての感染対策等の情報を保護者に配信している。	・つながる家族について保護者全員が登録してもらえるよう促していく必要がある。 ・保護者に対して多くの活動内容の情報を配信できるように努めていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・マンツーマンで支援する子どもが増え、他の子ども達の対応に時間がかかる事があり、子ども達への楽しめない要因の一つと考えられる。	・できる限り、本人の意向が聞けるよう心掛けているが、学校へ迎えに行く職員が多く、送迎から帰って来るまでの時間帯の対応の難しさがある。 ・子ども達からやりたい事の要望が増えてきている事から職員が対応できるまでに時間を要している。	・子ども達一人ひとりにスムーズな対応ができるよう、子ども達に見通しが持ちやすい言葉がけや対応ができるよう努め、楽しみながら成長を促していけるよう尽力する。 ・職員が少なくても取り組め、子ども達がグループで楽しめる活動を提案して取り組む。 ・なるべく速やかに対応ができるよう職員間で連携を図る。
2	・保護者同士が交流できる機会が少なく、情報交換の場が十分に設けられていない点が課題として考えられる。	・日々の業務の中で時間的な制約があり、交流の場の設定に十分な時間を確保できていないこと。	・保護者交流会や情報共有の機会を検討し、保護者同士のつながりを作る。（今後、茶話会の開催を予定しています）
3	・ヒヤリハット対策は実施していますが、日々の業務に忙殺され、口頭により話し合い対処しているため記録が残らず、新しい職員等への指導が不十分となっていることがある。	・ICTの活用がまだうまくできていない場面がありますので、積極的に取り組むことができるようにする必要があります。	・ICT（タブレット端末）の有効活用にて速やかに記録に残していく。